

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております)

2951号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 石田直裕：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<http://www.zck.or.jp>

銀世界 (奈良県東吉野村)



もくじ

随 想	情 報	フ ォ ー ラム	活 動	政 策
--------	--------	-------------------	--------	--------

- 電力の小売全面自由化について 経済産業省 電力取引監視等委員会 事務局 総務課 …… (2)
- 都市・農村共生社会創造全国リージョンポシウム in 熊本を開催 …… (5)
- 森林認証とICTによる地方創生 岐阜県東白川村 …… (7)
- 町村Nav …… (10)
- 「住みたい」「住み続けたい」「住んで良かった」 …… (11)
- 幸福度日本一のまちづくりをめざして …… 長崎県長与町長 吉田 慎 …… (11)

コラム

田園回帰と新語

明治大学農学部教授 小田切 徳美

「孫ターン」が話題となっている。昨年(2015年)2月9日号の本欄で論じたように、親世代を飛び越し、祖父母の住む農山村に移住する孫世代の動きが各地で見られる。最近では週刊誌や新聞、テレビ等の媒体ではしばしば取り上げられている。

こうした言葉を作り、実態を見直してみると、その量的な大きさに驚かされる。筆者の実感では、移住者には1割以上の割合で「孫ターン」がいるように思われる。そうした実態を見聞きして、一昨年あたりから筆者はこの言葉を使っているが、実はアクティブな移住相談機関として活動する「ふるさと回帰支援センター」では、副事務局長を務める高和男氏がこの傾向にいち早く気がつき、既に2〜3年前からセンター内で使用しているという。新語は実態の中から必然的に生まれていく。

新語といえば、カタカナの「ナリワイ」という言葉も同様である。これは、「ナリワイで生きる」ということは、大掛かりな仕掛けを使わずに、生活の中から仕事を生み出し、仕事の中から生活を充実させる。そんな仕事をいくつも創って組み合わせる「くま」と論じ、自らもそれを実践する伊藤洋志氏により提唱された言葉である。田園回帰の実践者の中で

は、新しいライフスタイルとして、確実に広がっている。

さらに、「継業」という新語もある。鳥取大学准教授の筒井一伸氏らによって作られ、移住者の仕事として、従来の就業や起業に加えて「業を継ぐ」という意味で言われている。農山村には、その商品・サービスの需要はあるものの、担い手不足により、継業が困難化している仕事がある。伝統工芸が典型であるが、身近な「パン屋」「豆腐屋」などもそのような状況にある。これも、このような言葉を知り、見回してみると、若い移住者が、起業よりも継業で対応しているケースが意外と多い。

この3つの新語に共通することは、その現象の担い手がいずれも若者であるという点である。そして、それに呼応するように、この実態に気づき、これらの新語を作り出したのも若い実践家や研究者である。

「孫ターン」「ナリワイ」「継業」。町村の移住支援担当者は、こうした新しい現実をキャッチ・アップし、さらにそれらを持統化させるためにどのように支援するのか、柔軟な発想で考える必要がある。このためには、その担い手と同様に、若い世代が期待される。若手職員の腕の見せ所である。

◎写真キャプション◎

奈良県東吉野村と三重県の県境にそびえる高見山。関西のマッターホルンとも呼ばれ、四季を通して美しい眺望が楽しめる。冬には樹氷が見られる事で有名である。山頂展望台からは、雲海に包まれた高見山地など、360度の大パノラマが味わえる。